

# 大阪仏壇

## 【産地組合】大阪宗教用具商工協同組合

### （産地紹介）

聖徳太子が四天王寺を建てた際、朝鮮半島の百濟から技術者を呼び寄せ大阪に住ませたことから、仏壇、仏具の産地が形成されたと言われています。その後、仏教が広まるのとともに、大阪独特の優れた製作技術・技法も府下一円に広まりました。

仏壇の原形は、農人橋のお被橋（はらいはし）の仏師が考案し、ほぞ組みに仕上げ、扉、障子を付け、移動に便利な型になっており、現在まで受け継がれています。

大阪仏壇は各宗派用にそれぞれ違った型の仏壇を製作しています。また、内部上段の前面には、高蒔絵（たかまきえ）の技法により段金具を打ち付けたように見せ、金具による木地の損傷を防ぐ工夫を凝らしています。

金箔を押した柱や彫刻の表面には優美な彩色を施しています。この他、扉前面の飾り金具八双（はっそう）に各宗派の違いを出しているのが特徴です。



### （トピック）

#### 技術・技法の活用

- ・ 仏壇製作における木地造り・彫刻・漆塗・金箔押・蒔絵・彩色・鍍金具等伝承された技術・技法を使って、金メダル、小箱、装飾品等、作り手の温かさを感じる逸品に挑戦しています。